

会 議 記 録		記録者	担当チーム
会 議 名	南谷タウンミーティング		
期 日	令和5年7月11日(火) 午後7時30分～午後9時10分		
場 所	南谷ふるさとセンター		
出席者	校区民	18人(うち女性1人)	
	市幹部	市長、教育長、圓山技監、羽渕部長、細田部長、小井塚部長	
	特区政策課	栗田主幹、渡邊主査	
	担当チーム(市)	上村、和田、正垣	
<p>1 開会  進行：栗田主幹 職員紹介 資料確認  参加：市長、教育長、圓山、羽渕、細田、小井塚、栗田、渡辺、上村、和田、正垣</p> <p>2 地域代表あいさつ  津崎・自治協会長</p> <p>3 市長あいさつ  今年からタウンミーティングのやり方を変えた。市政運営の対話であるが、自治協主催であり、区役員などの出席が主である。それを隔年での開催とした。その分、女性、若者が出やすいものを考えている。出前講座も受付けており、集落単位でも意見交換したい。1集落は実施したが、多世代が出席して意見交換できた。いろいろな人の意見を聞いて市政運営に活かしたい。</p> <p>以下、やぶ2050～居空間構想～などについて資料に基づき説明</p> <p>4 各部局の経営計画について  教育部(教育長)、まち整備部(圓山技監)、経営企画部(羽渕部長)、産業環境部(細田部長)、KDS部(小井塚部長)</p> <p>5 地域課題に関する意見交換    明延一円電車、春から運行を行なっている。来場者が自転車も増えた。車のナビは神子畑経由の案内をする。最近では南側の道が綺麗になっている。前は養父経由の案内をしていた。県道の路面が悪く、自転車の人を案内するのが苦しい。経費がかかるのは分かるが、なんとか道路整備を考えてほしい。</p> <p>圓山技監  昨年も同様の意見があった。県には要望している。県の事業でどこをやっていくかという問題もある。この地域は門野バイパスを整備中である。維持のこと、市から県には言ってい</p>			

きたい。

市長

自転車を多くの方が利用している。事故があったら大変だが、凹凸があつたりする場所など、全面的ではなく、ポイント的に修繕することも要望したい。県も自転車周遊を進めている。

産業環境部の政策、市独自策を検討とあるが、これで政策ができるのか？

細田部長

国県の補助事業があれば活用する、そこでできないものは市独自で考えていく、というもの。国県を把握して、市の施策を考えるもの。使えるものは使う、というスタンスである。

遊休地の検討とある、するではなく、検討するのが計画なのか？

圓山部長

遊休地の活用は、決まっているわけではなく、検討していきたい。

農業における担い手の確保について。糸原の田野地区では人農地プランの事業に取り組んでいる。若い人は仕事があり、なかなか取り組めない状況である。

80歳以上の人が多く農地の1/4を耕作、あとはナカバヤシがニンニクを作っている。助かっている。ナカバヤシが撤退すればたちまち農地がダメになる。5年契約で去年更新した。企業に対する補助は、行政からすべきではないかもしれないが、しているのか？

細田部長

企業だからそこに補助するというわけではない。担い手に対して機械補助をしているというものはある。企業がそこへの担い手に認定されていればしている。

個々の農家にも数年先はそれが言える。担えない場合は、新規就農者など外から来てもらう。地域と合意してもらい、進めていく、そこを支援していくことを考える。

ナカバヤシの撤退後には、継承先の紹介はあるのか？

細田部長

基本的にはその企業が継承先を探すことになる。そこで長くやってもらえる努力をすることが大切であると考えている。

市長

農家が減っているのは事実。条件不利益地はなかなか辛い。兼業農家が基本になってくるので、小規模でも良いので自由に作ってもらえるような制度にしていく。多様な農業の担い手を確保していくことが大切であると考えている。

一度市外に出た人だが、2週間に一度、帰って無農薬でやっている人がいる。2週間に一度で草も生えたり手が回らない、帰ってきて作りたい人もいるので、援助も必要ではないか。

門野も1人の方が半分以上を作っているような状態である。バイパスで農地も減る。高齢で担い手がない状況で困っている。近くの企業の相談もしている。ナカバヤシも増やす気はないと言っている。人手の問題、後処理の問題。兼業農家で続けるためには費用がかかる。機械への経費が多額である。自身も息子に農業をしろというのは酷だと思う、機械の維持が大変である。人に頼むと経費がかかるので機械の支援ができないか。また、個人の土地を企業に売ったら、違うことに使われそうで心配である。

また、自身の小学生の孫。デジタルを使ったことなど、学校で色々教えてもらっている。帰ってくるとゲーム、ネットを何時間もやっている。学校指導がどうなのか聞かせてほしい。

細田部長

農業機械の購入費用を補助となると、市民全員への補助となる。担い手への3割補助はある。企業への農地売買、適格法人でないと保有できない。特区なので企業が農地を取得することはできる。一旦市が買取、それを企業に渡す。企業ができなくなれば、市が保有する仕組み。

要望などは農地政策課が窓口であり、相談してほしい。

市長

農機具の問題はどこでも聞く。共同でもつと管理が難しい。稲作は機械の利用頻度少ない。兼業農家をやりたくても、それがハードルとなる。国は担い手に集積することを考えているもの。これだけでは無理なので、大きな農家、小さな農家が必要であると思う。知恵を絞って考えていく問題であるが、考えていく課題である。

土地を持つことができない人や企業についても制度を考えていくことが必要。みんなで考えて欲しい。

教育長

学校では1人1台タブレットを持って、進めている状態で活用している。学校の指導はSNSのルールを決めている、毎年新入生にも配布している。各学校ルールを決めて、保護者にも説明しているところ。

子どもがチャットしながらのゲーム等は、なかなか抜けられない状況である。保護者にも研修しているが、それを子供にどこまで指導しているか、学校ではルールを決めている。大きな課題になっているのは事実である。

ゲームを一旦やり出すと止まらない。困っている。親は仕事があり目が届かない。

教育長

夏休み前の指導も含めて、学校にも相談しておきたい。

お礼を言いたい。門野バイパスの件で宮本のバス停が移動した。バス停前の横断歩道が移動しないことを昨年この会議で言った。県にいうと工事完了後でないに対応できないという回答だった。要望書をだしたところ、公安委員会が視察に来た。市民課参事もきた。調査の結果、前向きの答えもらったが正式な回答はないままだった。つい先日、横断歩道ができた。

門野バイパス工事は、次に小学校の裏山を切るという工事に入るので、大型車両が入り、道も悪くなる。

養父土木が歩道も作ってくれた

市長

大型ダンプが走ると既存の道路を痛める。県へ小まめに連絡して、修繕をお願いしたい。

資料にはカタカナの文字が多く、一般の方にはわかりにくい。

合併してから長い、市長も大屋には気をかけてくれているが、八鹿養父が中心になってきている。たとえば、小学校のグラウンド整備も動きが遅い。旧町の時はもっと早かった、残念である

八鹿に新しいホールが出来た、大屋の人は八鹿には行くが、八鹿の人は大屋に来ない。八鹿は自然に賑やかになると思うが、大屋はそうではない。

農地バンクの制度は、この辺りでは無理だ。水田に戻さないと転作料がでない。小さな田んぼを引き受けてきたが、ちょっと難しい。この辺りの実態を知ってもらうことが必要。広いところはできるかもしれないが、この辺りは無理である。この辺りの農業は大変である。

市長

合併して20年目経つ、将来を考えて合併したもの。中心が存在する地域はそれなりに活力を維持しているのは確かである。合併により旧中心地が活力を失っているのは事実である。合併時にはそれを想定はしていなかったが、合併の行き着くところではないと思い、関宮の小さな拠点を進めている。

大屋は合併直後にハード整備を行った、大屋高校も県からもらいアート村にした。ハード部分は出来ているので、取り組みをすべきと、幾つか聞いている。ただ、市だけで行うのではなく、皆と考えていくべき。大屋市場の中心地をいかすことを考えていきたい。

ウイスキー蒸溜所が出来た、3年後には出荷になる。大屋の観光ツーリズムの拠点に位置付けたいし、ふるさと納税の返礼品にもしたい。

筏の但馬醸造、明延鉱山、明延の拠点の計画もあるので、順番に計画を立てて進めるべき、大屋は素晴らしいところが多い、他の地域にはない魅力がある。しっかりとやりたい。

農業施策については、おっしゃる通りで、国の制度が間違いだと思う。枠にはまらないとダメというのは違う。国とはしっかりやり合いたいので、支援してほしい。

5 閉会

米田教育長